

官学連携による高齢者の介護予防事業の実践

吉本 好延、根地嶋 誠、有菌 信一
聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部

はじめに

本学理学療法学科では、浜松市が実施している特定高齢者の介護予防事業の一つである「元気はつらつ教室」から介護予防事業への協力依頼を受けており、今後10年間に渡り介護予防事業を実践していく予定である。本事業の最終的な目標は、1)認知症の予防、2)転倒・骨折の予防、3)身体活動量の低下の予防に焦点をあてて、障害の原因を明らかにすること、障害の予防に努めることである。

本年度の目的は、まず長期計画の基盤をつくることであり、**スタッフや利用者との信頼関係を** **つくる**ことであった。

対象

対象は、元気はつらつ教室に通う高齢者106（男性10名、女性96名）名であった。元気はつらつ教室は、浜松市に在住する60歳以上の高齢者で介護認定を受けていない、教室への参加意思のあるものを対象とした介護予防事業であり、転倒予防体操やゲーム、手工芸などを**週に一度**（火曜日から土曜日）行っていた。

1. 教育講演の開催



毎週1回の講演（計15回）で教員の顔を覚えていただく

2. 健康調査の開催



対象者の不安を聴取しながら体力測定（9月に1回）



測定後に結果をフィードバックしながら雑談

事業後の感想

利用者からは、転倒や認知症予防の関わりを行ってほしいとの意見が多く聞かれた。スタッフからは、元気はつらつ教室だけで終わるのではなく、萩原壮全体にも継続して行っていただきたい、学生さんが参加してくれてよかったとの意見が聞かれた。

E-mail: yoshinobu-y@seirei.ac.jp